

per cent は熱帯の平地、山地及び熱帯外にも分布するもの、八屬、11.5 per cent は全然熱帯の山地又は熱帯外のものである。

之を以て見れば英國等北歐第三紀始新世には氣候熱帯的にして現今の Malay 群島の Flora 其儘のものが繁茂してゐたのであつた。其後漸新世を経て新第三紀となり鮮新世となるに従て氣候は漸次温帶的となり、Flora も亦變化して北半球の温帶共通的となり、遂に歐州型となつた。

それで兩氏は始新世當時の Tethys 海なるものは當時の地中海であつて、遠く歐洲より馬來の方に通じ、當時の馬來 Flora は Tethys 海の海岸に沿ふて分布し來れるものと結論すれども先づ第一に末馬來始新世の Flora に就ては知らるゝ所なく果して然るや否や、又は當時北半球一般にかゝる熱帯性のものに非りしか大に攻究を要する所である。(G. KOIDZUMI.)

耿以禮氏：— 支那禾本科植物二新種之紀述 Y. L. KENG, Two New Grasses from China, in *Sinensia* Vol. 4, no. 11 (1934) 321-326,

支那産の禾本二新種の記載で 1) *Puccinellia stricta* KENG. 江蘇省及上海の産、歐洲産の *P. procumbens* (CURT.) KENG に似たもの、2) *Stipa grandifolia* KENG 安徽省及本邦の箱根、富士山両地の産、本邦でヒロハノハネガヤ即ち *Stipa japonica* HACK. の名を用ひて居る植物であるが此れは苞穎が三脈を有する *Stipa sibirica* var. *japonica* HACK. に基いて居るので此植物ではないと云ふ。(J. O.)

中井猛之進氏、北川政夫氏共著：— 第一次滿蒙學術調查研究團報告第四部第一編 (Report of the First Scientific Expedition to Manchoukuo Section IV. Part 1. Tokyo 1934).

本論文は滿蒙學術調查研究團が昭和八年八月初旬より同年十月初旬に至る約二ヶ月間、熱河省内を調査された際の新種を發表されたものであつて、精細な立派な圖版と寫眞版があり、模範とすべき研究である。

第一部は熱河省産新木本植物であつて中井猛之進博士の著述にかゝる。1. *Celastrus jeholensis* NAKAI (オホミノツルウメモドキ)、2. *Euonymus mongolicus* NAKAI (モウコマユミ)、3. *Zizyphus sativa* GAERTN. var. *lageniformis* NAKAI (ダルマナツメ)、4. *Ampelopsis humulifolia* BUNGE var. *triseeta* NAKAI (ミツパノブダウ)、5. *Actinidia megalocarpa* NAKAI (オホミノサルナシ)、6. *Abelia biflora* TURCZ. var. *minor* NAKAI (ミヤマツクバネウツギ)、7. *Lonicera wulingensis* NAKAI (ムレイヒヨウタンボク)、8. *Sambucus foetidissima* NAKAI (ニホヒニハトコ) が記述してある。